

スポーツツーリズムへの取り組み

九州観光推進機構
大江 英夫

1. 九州観光推進機構とは *資料添付

九州7県と経済界が九州の一体的発展のためにつくられた九州戦略会議が設立主として7県よりの出向職員と参画企業からの職員で構成
5億円の事業予算と30名の職員(観光関係外からの参画も特色)

- ① 九州の魅力を磨きブランド化する
- ② 国内大都市圏からの誘客
- ③ 海外からの誘客

2. スポーツツーリズムへの期待

- ① 交流人口の増加、特に若年層
- ② 一次産業の活発化、6次産業化
- ③ 既存施設(体育館・グラウンド・プール)などの有効活用

3. 誘致の状況(具体例)

① マラソン大会への誘致

九州域内115のマラソン大会を取りまとめたホームページを作成し、国内外のランナーへPRすることで、マラソンをトリガーにした誘客を図る。
サイト名:「マラソンin九州」 アドレス: <http://marathon-kyushu.com/>
115のマラソン大会(短いものも含む)、市民マラソン～国際マラソンまで(福岡28、長崎19、熊本18、鹿児島15、宮崎14、大分13、佐賀8 各100名～12,000名の参加)

② スポーツフェスティバルの誘致

ゴールデンオールディーズ・ワールドラグビーフェスティバル
17カ国・地域から120チーム、2400名参加

③ 地域の取組み

長崎県川棚町のホッケー誘致、国見高校のサッカー交流

④ 九州オルレ *資料添付

済州島で始まった取組みを九州に取り入れ誘客中

⑤ モータースポーツへの取組み

海外からのレース誘致と観光プロモーション

4. 先進的に取り組みを行っている宮崎・鹿児島県

宮崎県・・スポーツランドみやざき推進協議会の設立 1115 団体 166000 人泊

鹿児島県・スポーツキャンプ対策県連絡会など 956 団体 111000 人泊

学生向けセミナーの実施（京都・大阪にて）

長崎県・・スポーツツーリズム研修会開催

＊いずれの県もスポーツ合宿に対する支援事業補助制度あり

5. 九州の優位性と課題

《優位性》

- 上津江村とカメルーン、徳之島の尚子ロード、菜の花マラソンなどにみる人情、温泉、食事、恵まれた気候、観光資源

《課題》

- 種目毎に異なるノウハウの蓄積と人材育成
得意分野を持つ地域支援
- 情報の集約と発信
各地にあるスポーツ施設・環境、各自治体で行われている支援事業等、情報の利用者への伝達の不十分。

⇒九州観光推進機構等で取りまとめ、九州一体となった取り組みとして情報発信。

「世界でも珍しい街灯」「マラソン合宿にも適した奄美大島」

